

研修会及び見学会・体験講座のお知らせ

エコ住宅を建てるための基礎講座

～地球にやさしい暮らしを目指して～

2010年3月、最高水準の山形エコハウス※が完成しました。この山形エコハウスのプロジェクトに関わった東北芸術工科大学の教員による研修会及び見学会を行います。「地球にやさしいエコハウスとはどのようなものなのか。」素朴な疑問から専門的な話まで多岐にわたってお答えします。また、体験講座（第2回）を通じ身近な環境の理解を深めてみてはいかがでしょうか。お問合せのうえ是非ご参加ください。

第1回 研修会及び見学会「エコハウスのデザインと性能」

日時：10月27日（水） 11:00～12:30

場所：山形エコハウス

講師：竹内 昌義

第2回 体験講座「エコ住宅の森林利用と間伐体験」

日時：11月27日（土） 9:00～12:00

場所：悠創館

講師：渡部 桂

定員：20名（定員になり次第締め切らせていただきます）

第3回 研修会及び見学会「普及版エコハウスの設計」

日時：12月15日（水） 11:00～12:30

場所：山形エコハウス

講師：馬場 正尊

第4回 研修会及び見学会「パッシブハウスはここがすごい」

日時：1月15日（土） 14:00～15:30

場所：山形エコハウス

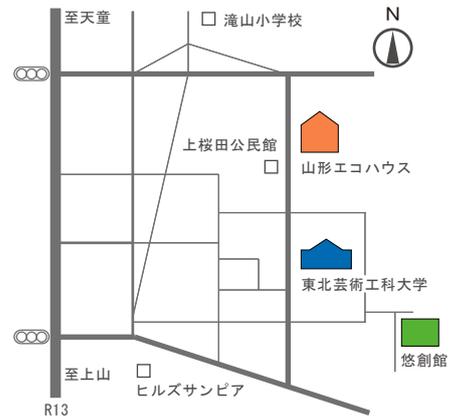
講師：森 みわ

第5回 研修会及び見学会「自然エネルギーの基礎と住宅での活用」

日時：2月19日（土） 14:00～15:30

場所：山形エコハウス

講師：三浦 秀一



・研修会及び見学会・体験講座の参加料はすべて無料になります。お申込み方法は裏面をご覧ください。

（全5回シリーズですが1回だけの参加でもかまいません）

・第1、3、4、5回について参加人数が多い場合は会場が変更になることがあります。

※山形エコハウスとは

「山形エコハウス」は山形県が環境省の補助を受け、東北芸術工科大学と連携し、平成22年3月に完成したモデルハウスです。環境省の「21世紀環境共生型モデル住宅整備事業」として、全国から選ばれた20の自治体のひとつとして、山形県が事業主体となって建設したものです。低炭素社会における住宅の未来形はいかなるものか、設計を通しその具体的な姿を追及し、「木で家をつくる・省エネルギー化する・自然エネルギーを使う」ことをコンセプトとしており、この3つを実践することで「カーボンニュートラルハウス」を実現しました。

講師紹介



竹内 昌義(たけうち まさよし)

1962年生まれ、神奈川県出身。東京工業大学工学部建築学科卒、同大学院建築学専攻修士修了。東北芸術工科大学教授。ワークステーション一級建築士事務所を経て、1995年長野放送会館設計競技当選を機にみかんぐみ共同設立。2001年より東北芸術工科大学にて教鞭をとる。代表作にShibuya AX、愛・地球博トヨタグループ館、伊那東小学校、Y150はじまりの森、マルヤガーデンズリノベーション他。著作に「団地再生計画／みかんぐみのリノベーションカタログ」、「POST=OFFICE」、「別冊みかんぐみ1」、「別冊みかんぐみ2」、「脱ファスト風土化宣言」など。2009年に馬場、三浦らとともに著した「未来の住宅」がエコハウスのもととなっている。



三浦 秀一(みうら・しゅういち)

1963年兵庫県生まれ。1992年早稲田大学大学院博士課程修了、博士(工学)。東北芸術工科大学准教授。建築と地域を主眼としたエネルギー計画や地球温暖化対策の技術評価や政策に関する研究を行う。山形県がカーボンニュートラルな地域となるよう、住民や自治体とともに実践活動に取り組む。著書(共著)に「都市環境学」(森北出版)、「資源・エネルギーと建築、シリーズ地球環境建築・専門編2」(彰国社)、「省エネ住宅とスマートライフでストップ温暖化、日本建築学会叢書4」(技報堂出版)、「学校の中の地球」(技報堂出版)、「京都議定書目標達成に向けて、建築・都市エネルギーシステムの新技術」(空気調和・衛生工学会)などがある。2009年に竹内、馬場らとともに著した「未来の住宅」がエコハウスのもととなっている。



馬場 正尊(ばば・まさたか)

1968年佐賀県生まれ。1994年早稲田大学大学院建築学科修了。博報堂、早稲田大学博士課程、雑誌『A』編集長を経て、2002年Open-Aを設立し建築設計、都市計画、執筆などを行う。東北芸術工科大学准教授。最近の作品に、「勝ちどきTHE NATURAL SHOE STOREオフィス&ストック」、「房総の馬場家と連棟」、著書に、『R the transformers～都市をリサイクル～』(R-book制作委員会)、『POST-OFFICE／ワークスペース改造計画』(TOTO出版)、『「新しい郊外」の家』(太田出版)など。都市の空き地を発見するサイト「東京R不動産」を運営。東京のイーストサイド、日本橋や神田の空きビルを限定的にギャラリーにするイベント、CET(Central East Tokyo)のディレクターなども務め、建築設計を基軸にしながら、メディアや不動産などを横断しながら活動している。古い建築の再活用の仕事を多数手掛け、リサイクルという意味ではエコに取り組んできたが、この家をつくるプロセスで、住宅の新しい可能性を模索した。



森 みわ(もり・みわ)

1977年生まれ。東京都出身。横浜国立大学工学部建設コース卒業後、ドイツ政府研究奨学生(DAAD)として渡独。ドイツStuttgart大学建築都市計画学部にて研究奨学生(DAAD)として渡独。ドイツStuttgart大学建築都市計画学部にて勤務。東京ドイツ大使館の設計等を手がける。2004年以降はアイルランドの設計事務所Buchloz McEvoy Architects、MosArtでの勤務を通じて、自然換気による事務所Buchloz McEvoy Architects、MosArtでの勤務を通じて、自然換気によるタイプ開発に携わる。2009年に神奈川県鎌倉市に拠点を移し、設計事務所KEY ARCHITECTSを設立。ドイツのパッシブハウス研究所の認定を受けたパッシブハウス国内第一号を完成させる。2010年2月には一般社団法人パッシブハウス・ジャパンの代表理事に就任。著書に『世界基準の「いい家」を建てる』(PHP研究所)。東北芸術工科大学客員教授。



渡部 桂(わたなべ・かつら)

1974年生まれ。山形県出身。1999年、東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科デザイン工学専攻修了後、ランドスケープコンサルタント事務所に勤務。高速道路、住宅団地、個人邸のランドスケープデザインのほか、農村景観調査、企業環境事業戦略等を手がける。2004年から同大学デザイン工学部環境デザイン学科助手、2009年から同大学講師。近年は森林整備、地域計画、広場デザインなどのほか、地域の資源を活かした観光事業もランドスケープ領域の仕事として取り組んでいる。当然ながら、環境を読むことから地域や場所へアプローチし、そこに必要なデザイン理論と方法を構築している。造園技術やランドスケープ研究を基に、地域環境の復元、維持、創出を実地で具体的に進める。共著「未来の住宅」(2009年)。

<問い合わせ先>

山形県地球温暖化防止活動推進センター

(特定非営利活動法人 環境ネットやまがた)

〒990-2421 山形県山形市上桜田3-2-37

Tel:023-679-3340 Fax:023-679-3389

E-mail:eco-house@eny.jp URL:http://eny.jp/ecohouse/ (参加申込書の掲載があります。)

*参加ご希望の方は、電話、メール、FAXのいずれかの方法で各開催日の前日までにお申し込みください。

*第2回体験講座については、定員になり次第締め切らせていただきます。

*山形エコハウスには十分な駐車場はありませんので、車でお越しの際には東北芸術工科大学の駐車場をご利用ください。